作った作品を振り返る

1、これまで作った作品の中で、一番難しかった作品は？
どんなところが？

何が良くて悪いか漠然と感じるだけでなく、なぜか、どこがというのを言葉にしていくことで、自分の指針となり、これからの目標となる。どこを直せばよいのかというのも、作品作りは直感でよいが、理由を言葉にして、講師としてのスキルを伸ばしましょう

2、これまで作った自分の作品で、一番スムーズにできた作品は？
どんなところが？

スムーズにできた作品が、一番好きとは限らない。むしろ一番難しかったものが一番印象に残って今後やりやすいという人も多い。
やりたいことを伸ばしていくのが一番の上達。
時々それ以外の手法もやってみると、新しい楽しさにつながることが多いので、生徒さんにも時々得意と違うものを勧めてみる。

3、一番好きな作品は？

また、講師になった時のヒントとして、
・初心者向けのカリキュラムがなく、生徒さんに「どれを作りたい」と選択しもらうとする。
・最初にその一番好きな作品を作ったら、つぎ作る作品は「２番目」になり、嬉しい気持ちが下がる。
・特に初心者のうちは、「好きな作品」ではなく、「レベル１」のように「花のカットの練習」、「配置のコツ」など、簡単な目的を示して技術のステップアップを目的にする。
ただし、このカリキュラムは講師用なので、楽しめる範囲、目的意識を伝えるくらいで大丈夫。

4、修了制作はどんなものを作る？

O2のタイミングで、P 課題制作の準備をします。それまでにどんなデザインにするか、見本やラフスケッチを用意してください。

◎これまで作った作品を参考にして、きれいに出る色の組合せや形、自分の得意を引き出せる形をデザインのヒントに。

O1

目的：様々な花の描き方、日を重ねる作品の継続

課題：花（円盤φ50）

受講日　年　月　日

ベース皿	円盤φ50mm
専用粘土	標準使用量　8 g

ガラスパーツ 20g

形	色	太さmm
花びら		
花		
花芯		
葉		
△黒		
特殊		

1．ベース皿の確認

・ステンレス製の円盤、φ５0mmで、アクセサリーではなく額絵などインテリア用。そのままでもいいが、額装がおススメ。
・皿が大きい分、パーツを大きくできる。パーツを小さくしてより緻密に絵描くこともできる。
・大きい分、高さの調整が難しいが、額などにする場合は凹凸を活かして立体的に作ってもOK
・１回でできるくらいの範囲で粘土を置き、足していく方法でじっくり納得のいく絵画に仕上げていける。
・今回はお花なので下絵は、作ってもつくらなくてもどちらでも可能。
・上下が分からなくなるので、紙に張り付けてしるしをつける。

次ページに続く→